

わたしのまちの健康プロフィール(豊肥版)

1 管内の概要

【作成元】 2020年4月
大分県豊肥保健所
 〒879-7131 大分県豊後大野市三重町市場934番地2
 TEL:0974-22-0162/FAX 0974-22-7580

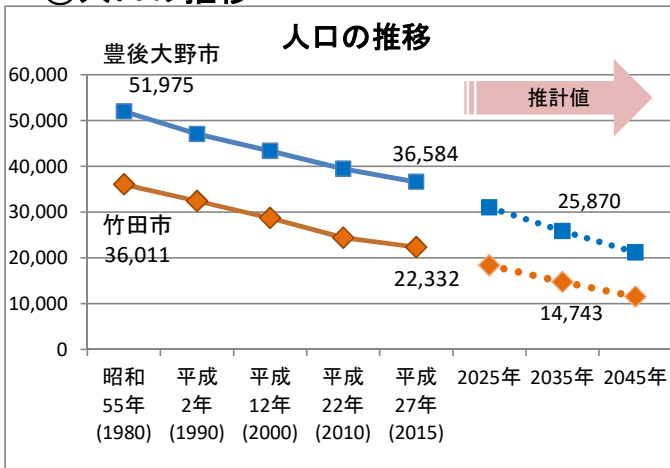


人口	管内 54,349 人 (対前年1230人減)
	竹田市 20,434 人 (△2.50%減)
	豊後大野市 33,915 人 (△2.04%減)
世帯数	管内 22,840 世帯 (対前年317世帯減)
	竹田市 8,729 世帯
	豊後大野市 14,111 世帯
高齢化	管内 45.4 % (対前年0.6%増)
	竹田市 47.8 %
	豊後大野市 43.9 %
	大分県 32.6 %

資料: 大分県統計調査課「推計人口」(令和元年10月1日現在)

(1) 人口

①人口の推移



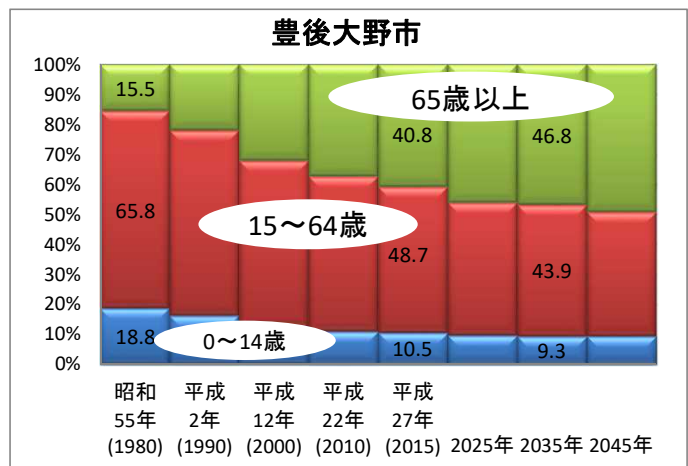
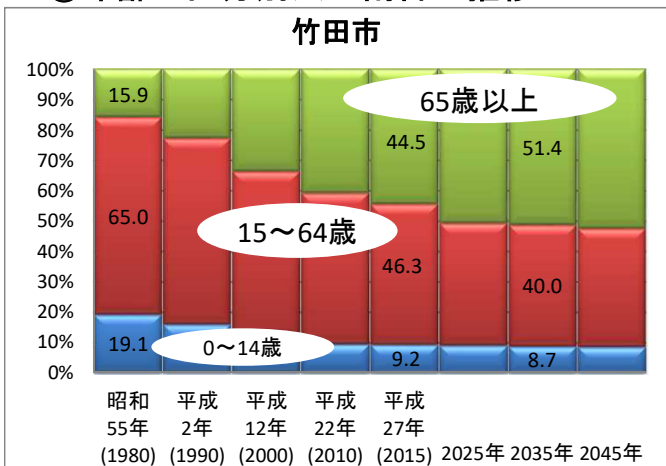
人口は年々減少しており、今後も減少すると予想されています。平成30年の人口減少率は、竹田市が2.50%減(県内2位)、豊後大野市は2.04%減(県内4位)でした。

また、豊肥地域は県内でも高齢化率の高い地域であり、平成30年の高齢化率は、竹田市47.8%(県内2位)、豊後大野市43.9%(県内5位)でした。

65歳以上の高齢者が増える一方で、15歳~64歳の世代は年々減っており、高齢者を地域全体で支える仕組みづくりが必要となっています。



②年齢3区分別人口割合の推移



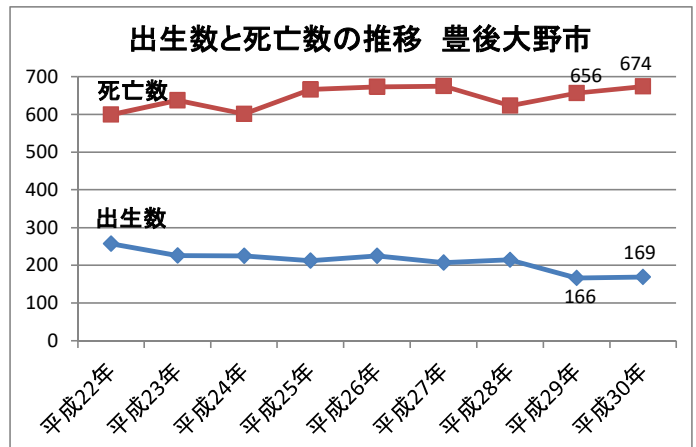
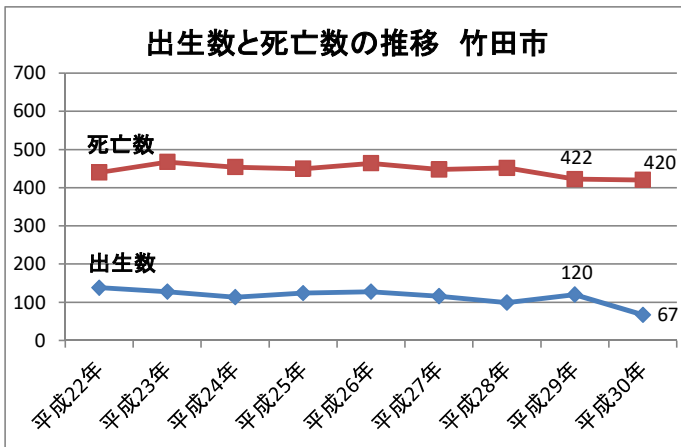
資料: 1980年~2015年 総務省統計局「国勢調査」
 2025年~2045年 国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口」平成30年3月推計

2 人口動態

(1) 出生と死亡の状況

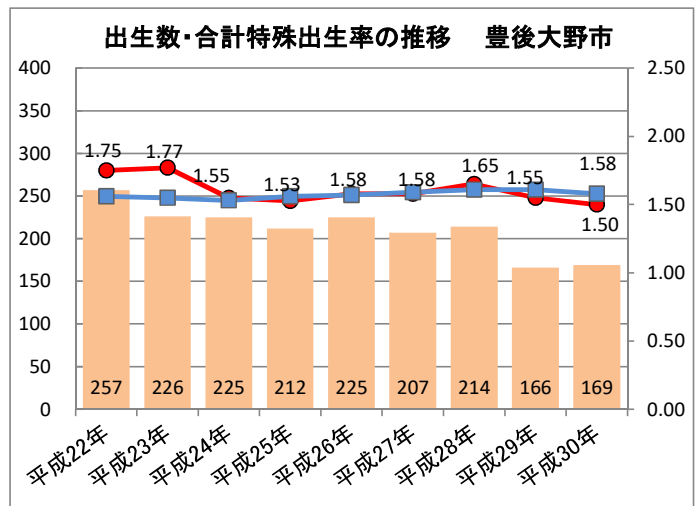
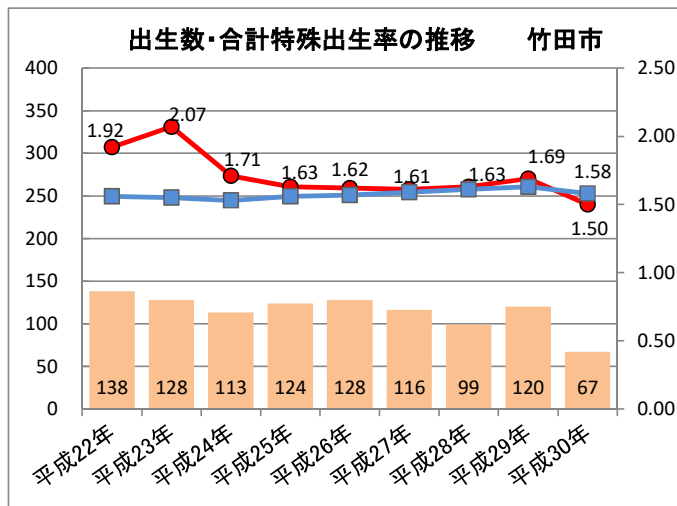
平成30年	生まれる赤ちゃん【出生】			亡くなる人【死亡】		
	出生数 (実数)	出生率 (人口千対)	(再掲) 出生数 2,500g 未満	合計特殊 出生率※	死亡数 (実数)	死亡率 (人口千対)
大分県	8,200	7.2	787	1.58	14,492	12.8
竹田市	67	3.2	4	1.50	420	20.2
豊後大野市	169	4.9	18	1.50	674	19.6

資料：厚生労働省「人口動態統計」
各市の合計特殊出生率は県福祉保健企画課調べ（平成26年～30年の平均値）



出生数をみると、竹田市は前年に比べ減少、豊後大野市は前年に比べて増加しています。
竹田市、豊後大野市ともに、県に比べ、人口千人あたりの出生率が低く、死亡率が高くなっています。
また、死亡数が出生数を上回り、自然減の状況が続いています。

(2) 出生数と合計特殊出生率の推移



出生数 合計特殊出生率【市】 合計特殊出生率【県】

合計特殊出生率は、1人の女性が一生の間に生む子どもの数をあらわす指標で、人口を維持するためには2.07以上が必要です。

管内の合計特殊出生率は県よりも概ね高い値で推移していましたが、平成25年頃から県平均並みの値で推移しています。平成30年の合計特殊出生率は、竹田市1.50（県内14位）、豊後大野市1.50（県内14位）であり、近年横ばいの状況が続いています。



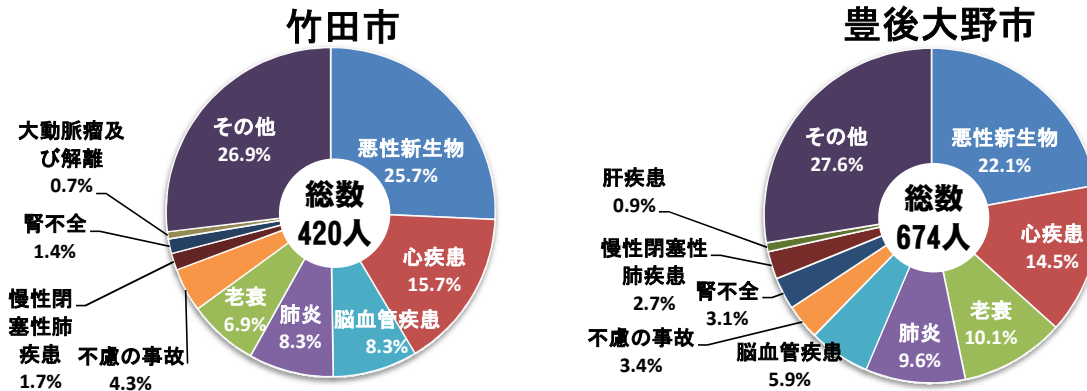
(3) 主要死因別死亡数・死亡率(人口10万対)

平成30年

死因	大分県	竹田市		豊後大野市	
	率	実数	率	実数	率
死亡総数	1280.2	420	2020.8	674	1955.2
悪性新生物	323.6	108	519.6	149	432.2
心疾患	194.7	66	317.6	98	284.3
脳血管疾患	103.9	35	168.4	40	116.0
肺炎	92.8	35	168.4	65	188.6
腎不全	27.0	6	28.9	21	60.9
老衰	100.1	29	139.5	68	197.3
不慮の事故	45.1	18	86.6	23	66.7
慢性閉塞性肺疾患	21.1	7	33.7	18	52.2
自殺	18.0	8	38.5	5	14.5

資料:厚生労働省「人口動態統計」

(4) 主要死因別死亡割合(平成30年)



主要死因別死亡率(人口10万対) 上位5疾患

竹田市	1位	2位	3位	4位	5位
平成30年	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎(同率3位)	老衰
平成29年	悪性新生物	肺炎	心疾患	老衰	脳血管疾患
平成28年	悪性新生物	肺炎	心疾患	脳血管疾患	不慮の事故
平成27年	悪性新生物	肺炎	心疾患	脳血管疾患	老衰

豊後大野市	1位	2位	3位	4位	5位
平成30年	悪性新生物	心疾患	老衰	肺炎	脳血管疾患
平成29年	悪性新生物	心疾患	老衰	肺炎	脳血管疾患
平成28年	悪性新生物	心疾患	老衰	肺炎	脳血管疾患
平成27年	悪性新生物	心疾患	肺炎	脳血管疾患	老衰

注) 表中の 色塗り の部分は生活習慣病に起因するとされる疾患です。

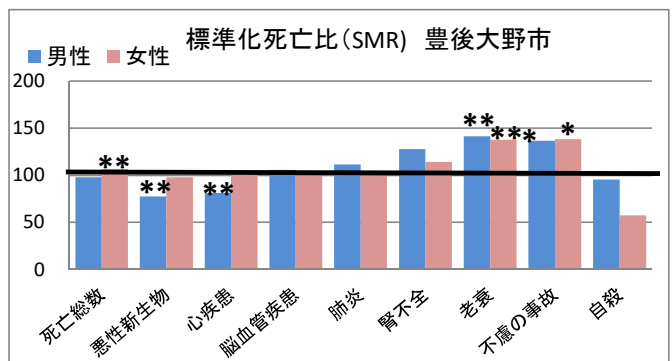
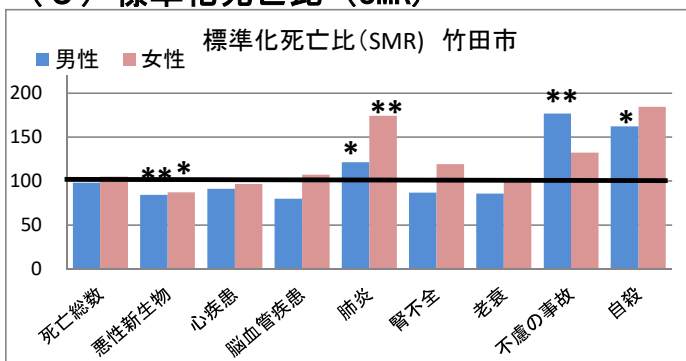
管内の死因別死亡数を見ると、両市とも1位は悪性新生物で2位は心疾患となっている。竹田市では第3位に脳血管疾患及び肺炎、豊後大野市では第3位に老衰となっています。

全国的には、悪性新生物、心疾患、老衰、脳血管疾患、肺炎の順で多くなっています。(平成30年人口動態結果)

死亡の状況は人口規模や年齢構成に影響されるので、地域毎に比較する場合は、年齢構成の差を取り除いた「標準化死亡比(SMR)」を用います。全国を100として、100より大きい時は、全国より高い(多い)ということになります。竹田市では男女の肺炎及び不慮の事故、自殺、豊後大野市では男女の老衰、不慮の事故が統計的に高くなっています。



(5) 標準化死亡比(SMR)



注) *は5%の危険率、**は1%の危険率で有意に期待死亡率と差がある。

資料:厚生労働省「人口動態調査」の調査票情報を利用し大分県健康指標計算システムで集計(H26~30年平均)

3 平均寿命とお達者年齢

～平均寿命と健康寿命について～

「平均寿命」は、0歳の子どもが何年生きられるかを示したものであり、都道府県の数値は国が5年毎に公表しています。市町村の平均寿命も5年毎に国が算出していますが、大分県では独自に算出（※1）し、毎年公表（※2）しています。

「健康寿命」は、健康で過ごせる期間を示したものです。国が算出する「健康寿命」は、国民生活基礎調査の結果を基に、「健康上の問題で日常生活に制限のない期間」を算出したもので、全国値と都道府県の値が3年に1回公表されます。平均寿命と健康寿命の差は、健康ではない期間を意味するので、この期間をなるべく短くすることが必要です。

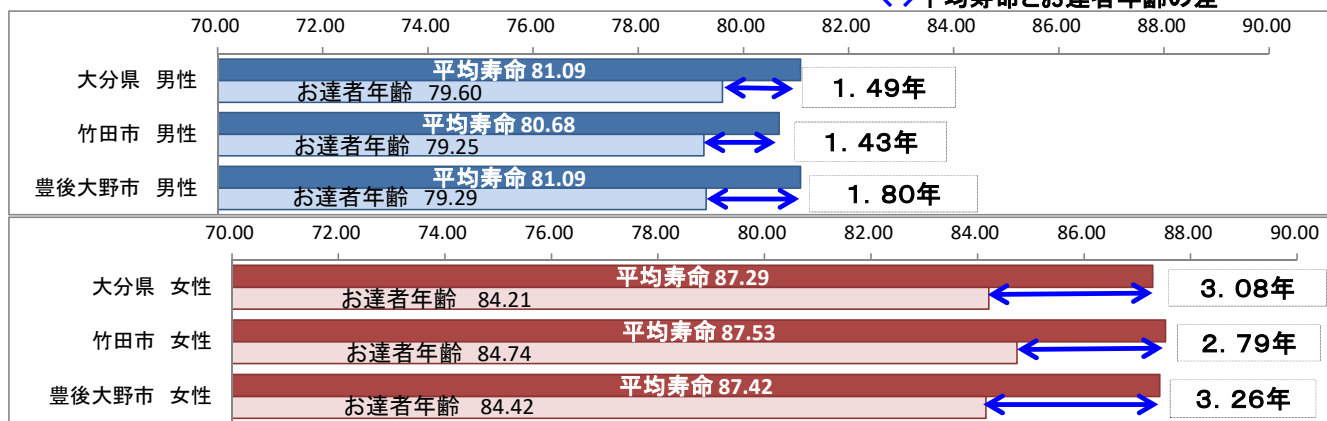
なお、人口規模の小さい市町村では、国と同様の調査による「健康寿命」の算出は困難なため、類する指標として、「お達者年齢」（※3）を大分県が毎年公表（※2）しています。

- ※1 「毎月流動人口調査報告」等から算出
- ※2 人口規模が小さく単年度では精度が低くなるため、5年間平均値を使用
- ※3 「要介護2以上に認定を受けていない方」を健康として定義



(1) 管内各市の平均寿命とお達者年齢

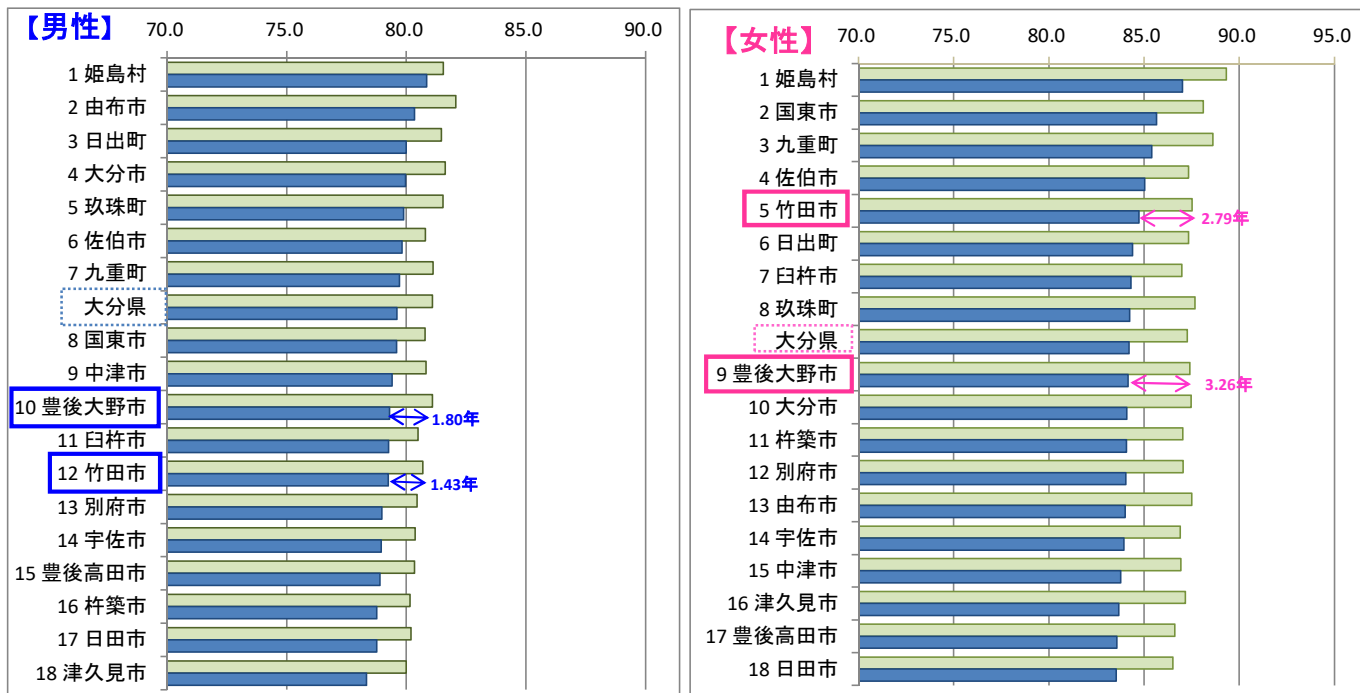
↔ 平均寿命とお達者年齢の差



資料：厚生労働省「人口動態調査」の調査票情報を利用し大分県健康指標計算システムで集計（26～30年平均）

(2) お達者年齢 市町村ランキング

■ お達者年齢 ■ 平均寿命



管内のお達者年齢は、竹田市は県平均に比べて男性が低く、女性は県平均並み、豊後大野市は県平均に比べて男女ともに低くなっています。平均寿命とお達者年齢の差をみると、管内では男性が1～2年、女性が2～4年です。

健康寿命を延ばすためには、若い頃からの健康的な生活習慣と、高齢者の介護予防が重要です。地域全体で「元気で長寿な地域No1」を目指し、健康増進に取り組みましょう！

